住環境調整工学（辻原担当分・第２回目）

2001.4.20
環境共生学部・居住環境学専攻
講師・辻原万規彦

１．森鴎外の略歴

森林太郎（1862～1922，号は鴎外）

1862（文久２）年　石見国津和野藩主亀井家の典医森静男と峰子の長男として生まれる。

1872（明治５）年　父とともに上京。私立学校進文学社に通いドイツ語を修める。

1874（明治７）年　第一大学区医学校（のちの東京医学校予科）入学。この時13歳で，年齢が２歳不足していたため，1860（万延元）年生まれとして入学が許可。これ以後，公務・軍関係の履歴書には，東京府士族万延元年生まれとした。

1881（明治14）年　東京帝国大学医学部卒業。陸軍省出仕。軍医副となる。

1884（明治17）年　陸軍省官費留学生として，陸軍衛生制度と衛生学研究のため，ドイツ留学。この間，ホフマン（ライピチヒ），ペッテンコーフェル（ミュンヘン），ロート（ドレスデン），コッホ（ベルリン）に師事。

1888（明治21）年　ドイツより帰国。陸軍医学校と陸軍大学校の教官となる。

1889（明治22）年　最初の妻赤松登志子と結婚。

1890（明治23）年　「舞姫」。

1891（明治24）年　医学博士。

1894（明治27）年　日清戦争に従軍。中路兵站軍医部長。第二軍兵站軍医部長。

1895（明治28）年　台湾総督府陸軍局軍医部長。陸軍軍医学校校長。

1898（明治31）年　近衛師団軍医部長兼軍医学校長

1899（明治32）年　陸軍軍医監，第十二師団（小倉）軍医部長。２番目の妻，荒木志げと再婚。

1902（明治35）年　第一師団（東京）軍医部長。

1904（明治37）年　日露戦争に従軍。第二軍軍医部長。

1907（明治40）年　陸軍軍医総監，陸軍省医務局長。

1909（明治42）年　「半日」。以後文学活動を本格的に再開。文学博士。

1913（大正２）年　「阿部一族」。

1916（大正５）年　陸軍省医務局長を辞職，予備役に編入。「高瀬舟」。

1917（大正６）年　宮内省帝室博物館総長兼図書頭。

1919（大正８）年　帝国美術院院長。

1922（大正11）年　病没。

住環境調整工学（辻原担当分・第２回目）

2001.4.20
環境共生学部・居住環境学専攻
講師・辻原万規彦

２．森鴎外の住環境に関わる著作

軍医が何故住環境の改良に熱意を持ったのか？
当時の陸軍にとって造家衛生改善は重要課題であった。
強健な兵を養成するためには，伝染病をはじめとして様々な病気から守らなければならない。

【公衆衛生学に関する教科書】
「陸軍衛生教程」（1889（明治22）年）
第一編　水。第二編　空気。第三編　土地。第四編　気候。第五編　住居。第六編　掃除。以下，第二十六編まで。
〔内容〕飲用水の水質，一人当たりの用水量，給水法，澄水法，汚染空気，自然換気，人工換気，人体の適温と適湿，局所暖室法と中央暖室法，自然照室法と人工照室法，暗渠下水法など。
「衛生学大意」（1907（明治40）年）
土地。下水。埋葬。上水。都会。家屋。衣服。飲食。
〔内容〕家屋の章で室内環境を扱う。採光窓の割合，二重窓の伝熱，ガス燈使用と一酸化炭素中毒，採暖法など。
「衛生新篇　第１版～第５版」（1897（明治30）～1914（大正３）年）

【建築衛生・建築規則】
「日本における家屋についての民俗学的衛生学的研究」（1888年，ドイツ語）
「日本家屋（説）自抄」（1888（明治21）年）→別添資料を参照
「屋制新議」（1890（明治23）年）
「屋式略説」（1891（明治24）年）
「壁湿ノ検定」（1891（明治24）～1892（明治25）年）
「壁湿説」（1891（明治24）年）
「家屋の事」（1892年（明治25）年，「衛生学大意」に所収）
「造家衛生の要旨」（1893（明治26）年）
「家屋（屋式を含む）」（1892（明治25）年）
「家屋」（1914（大正３）年，「衛生新篇　第５版」に所収）　など

【市区改正・都市計画】
「日本における家屋についての民俗学的衛生学的研究」（1888年，ドイツ語）
「日本家屋（説）自抄」（1888（明治21）年）
「市区改正ハ衛生上ノ問題ニ非サルカ」（明治22年）
「市区改正論略」（1890（明治23）年）
「都会の事」（1892年（明治25）年，「衛生学大意」に所収）
「都市，市街」（1897（明治30）年，「衛生新篇　第１版」に所収）
「都市，新街造設ノ計画」（1914（大正３）年，「衛生新篇　第５版」に所収）　など

住環境調整工学（辻原担当分・第２回目）

2001.4.20
環境共生学部・居住環境学専攻
講師・辻原万規彦

３．住環境調整に関する研究の歴史（明治，大正期）

「計画原論」＋「建築設備」＝「建築環境工学」　「住環境調整工学」

３．１　明治期

1878（明治11）年４月開校　工部大学校造家学科（のちの東京帝国大学工学部建築学科）
造家理学（１）音響学，（２）通風及び暖房の方法，（３）衛生上の建築

１）ドイツ式衛生学の実践
　　森林太郎，小池正直（軍医），中浜東一郎（内務省），緒方正規（東大衛生学教室），坪井次郎（東大衛生学教室）など
２）欧米技術の吸収

３．２　大正期

１）日本式衛生学の展開
　　京都帝国大学医学部衛生学教室：戸田正三，三浦運一，藤原九十郎ら→雑誌「国民衛生」
２）藤井厚二
　　1888（明治21）年　広島県福山市の造り酒屋藤井与一右衛門と元の長男として生まれる。
　　1913（大正２）年　東京帝国大学工科大学建築学科卒業。竹中工務店入社。
　　1920（大正９）年　京都帝国大学工学部建築学科講師。
　　1921（大正10）年　京都帝国大学工学部建築学科助教授。
　　1926（大正15）年　工学博士。京都帝国大学工学部建築学科教授。
　　1938（昭和13）年　逝去。
　　「日本の住宅」「聴竹居」
３）周辺工学分野の展開
　　暖房冷蔵協会の発足（1917（大正６）年）
　　照明学会の発足（1916（大正５）年）

４．参考文献

『歴史文化ライブラリー39　森鴎外　もう一つの実像』（白崎昭一郎著，吉川弘文館，1998年６月，\1,700，ISBN：4-642-05439-1）
『環境と共生する住宅「聴竹居」実測図集』（竹中工務店設計部編，彰国社，2001年３月，\3,400，ISBN：4-395-00700-7）